

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝川小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	今年度も算数科での課題が見えたため、R6年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、R5年度の自校の結果より3pt向上させる。知識・技能の定着のためにICTを活用するだけでなく、技能の習得するために、問題を解く機会を多く設定する。
思考・判断・表現	今年度も算数科での課題が見えたため、R6年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R5年度の自校の結果より3pt向上させる。思考力の向上のために、他者に伝える活動や、他者の考えを受け入れて、より良い考えを導き出す機会を多く確保する。
主体的に学習に取り組む態度	R6年度さいたま市学習状況調査の「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目において肯定的な意見の割合を90%以上に上げる。学びのポイント(じ・し・ゃ・く)の視点に基づく授業改善を継続して行っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より3pt向上させる。	⇒ ICTを活用したドリルパークやスタディサプリを繰り返し行い学習内容の定着に努める。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より3pt向上させる。	⇒ ムーブノートやオクリンク、共同編集等の共同学習ツールを活用する能力を高め、教え合う、学び合う活動を保証し、自らの考えを自由に表現できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目において肯定的な意見の割合を90%以上に上げる。	⇒ 年間を通して、ICT活用による児童の主体的な学びを授業の軸とし、教員による問題、課題提示の仕方、板書や教具などを工夫したハイブリッド授業を展開する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より1.4pt向上した。各学級で、ICTを活用したドリルパークやスタディサプリを繰り返し行い学習内容の定着に努めることはできたが、今後も継続して行っていく必要がある。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より-2.7ptとなった。ムーブノートやオクリンク、共同編集等の共同学習ツールを授業で活用することができたが、今後も目的や場面を考慮しながら活用していく必要がある。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目において肯定的な意見の割合が90%だった。年間を通して、ICT活用による児童の主体的な学びを授業の軸とすることができた。今後も各教員がICTを活用しながら児童が主体的に学ぶ機会を増やすことができるよう継続していく。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	埼玉県との平均正答率を比較すると、本校はやや下回っていた。項目別にみると、「正三角形の意味や性質について」が-10ポイント、「四則や分配法則を用いた計算」が-9ポイント、「棒グラフの読み取り」が-16ポイントと埼玉県の平均正答率と開きがあった。
思考・判断・表現	埼玉県との平均正答率を比較すると、本校はやや下回っていた。項目別にみると、「棒グラフの読み取り」が-16ポイントと埼玉県の平均正答率と大きな開きがあった。しかし、数量関係や面積の大小を説明する問題等は埼玉県平均を上回っていた。
主体的に学習に取り組む態度	本校と埼玉県の平均回答率を比較すると、質問30「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つ」は+8ポイント、質問33「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか」は+9ポイント、質問34「各教科などで学んだことを生かしながら自分で考えをまとめる活動をしたか」は+17ポイントであり、大きく上回っていた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度さいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	本校とさいたま市の平均正答率を比較すると、国語科で-1.6%、算数科で-3.8%下回った。項目別にみると、国語科では、「読むこと」に課題が見られた。また、算数科では、「測定」に課題が見られた。	小4	本校とさいたま市の平均正答率を比較すると、国語科で-3.8%、算数科で-5.3%下回った。項目別にみると、国語科では、「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られた。また、算数科では、「数と計算」に課題が見られた。
小5	本校とさいたま市の平均正答率を比較すると、国語科で3.7pt算数科で5.2pt、社会科で3.5pt、理科で2.3pt下回った。項目別にみると、国語科では、「言語の特徴や使い方に関する事項」、算数科では、「データの活用」、社会では、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」、理科では、「粒子」を柱とする領域に課題が見られた。	小6	本校とさいたま市の平均正答率を比較すると、国語科で-1.6pt、算数科で-3.8pt下回ったが、社会科で5.8pt、理科で6.2pt上回った。項目別にみると、国語科では、「読むこと」、算数科では、「測定」に課題が見られた。全体では上回ったものの、社会科では、「歴史と人々の生活」、理科では、「地球」を柱とする領域に課題が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 図形や数と計算領域に課題が見られたため、その2領域を中心にICTをより活用していく。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 記述する問題に課題があるため、ムーブノートやオクリンク、共同編集機能等の共同学習ツールだけでなく、自身の考えを記述し直接相手に伝える活動も取り入れていく。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

